

事例 1



アーティキュレーションを

生かして伝えよう

第1学年 表現（器楽）

♪本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 A 表現(2)器楽

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。

イ(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり

ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使用方などの技能

〔共通事項〕(1)ア 音色、旋律

♪教材

「聖者の行進」(リコーダー二重奏)

👉 [学習指導案](#)

👉 [ワークシート作成例](#)

👉 [アドバイスシート作成例](#)

1 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

- アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使用方などの技能を身に付ける。
- アルトリコーダーの音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。
- アーティキュレーションを生かして演奏することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、アルトリコーダー二重奏に親しむ。

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。	思 アルトリコーダーの音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 アーティキュレーションを生かして演奏することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使用方などの技能を身に付け、アルトリコーダーの演奏で表している。		

事前アンケートでの「音楽の学習の中で、どの分野が得意ですか」という質問に対して、「器楽」と回答した生徒は全体の約12%でした。また、「これまでの音楽の学習の表現領域（器楽：アルトリコーダー）の中で、どのようなことができるようになりましたか」という質問に対して、「運指」や「息継ぎ」と回答している生徒は100%でしたが、「タンギング」と回答している生徒は約12%でした。この結果から、タンギングの習得が不十分であるため、アルトリコーダーの様々な音色や響きを味わいながら、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な技能の習得に課題を感じていることが分かりました。この実態を踏まえ、アルトリコーダーを演奏するために必要な技能を習得し、創意工夫を生かした表現で演奏できることを目指した授業づくりを考えました。



2 題材の指導と評価の計画（全4時間）

…次頁で具体を示します。

時	◆学習のねらい ○学習内容 ・学習活動	評価			評価方法
		知・技	思	態	
1	◆アルトリコーダーの音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，アルトリコーダーの音色や奏法への関心をもつ。				
	○既習教材を用いて，アルトリコーダーの音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる。 ・「喜びの歌」，「かっこう」の2曲を，アルトリコーダーの音色，旋律を確認しながらアルトリコーダーで演奏する。 ○題材全体を通しての学習の見通しをもつ。 ○「聖者の行進」（リコーダー二重奏）（以下，「聖者の行進」）の構成と2つの旋律を確認しながら演奏する。 ・コール&レスポンスのような掛け合い，ユニゾン，2声のハーモニーで構成されていることを確認する。 ・2つの旋律を意識しながら演奏する。				
2	◆アルトリコーダーの3種類の奏法を生かして演奏しながら，音色や響きと奏法との関わりについて理解する。				
	○アーティキュレーションによる曲想の変化に関心をもつ。 ・スタッカート奏法，ポルタート奏法，レガート奏法による「聖者の行進」を聴き，アーティキュレーションによる曲想の変化についてワークシートに記入する。 ○アーティキュレーションによるアルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解する。 ・3種類の奏法で試奏する。 ・3種類の奏法を生かして演奏するために必要な技能のポイントや身体の使い方をワークシートに記入する。	知			観察 ワークシート
3	◆アルトリコーダーの音色や響き，アーティキュレーションを生かして，「聖者の行進」をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。				
	○表したい器楽表現について考え，イメージをもつ。 ・ペアで「○○な聖者の行進」という曲名を考える。 ○どのように演奏するかについてペアで話し合い，思いや意図をもつ。 ・アーティキュレーションを生かして，「○○な聖者の行進」をどのように演奏するかについてペアで話し合い，ワークシートに記入する。 ・中間発表でほかのペアと互いに聴き合い，奏法に関するアドバイスを伝え合う。		思		観察 ワークシート
4	◆創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法，身体の使い方などの技能を身に付け，アルトリコーダーの演奏で表し，そのよさを学級で共有するとともに，リコーダー二重奏の楽しさを実感する。				
	○学級で発表会を行う。 ・創意工夫した点を発表し，互いの演奏のよさを伝え合う。 ○本題材の学習を振り返る。	技		態	演奏 観察 ワークシート

本題材における評価は，〔記録に残す評価〕を行う場面を示しています。〔指導に生かす評価〕を行う場面は，随時存在するため，毎時間の学習のねらいに即した生徒の学習状況を把握し，必要な指導を適宜行います。



3 本題材における指導の工夫のポイント

ここでは、本題材における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点を基に、指導の工夫のポイントについて紹介します。

♪【第1時】

生徒が音楽活動を通して、実感を伴って理解するための工夫

中学校音楽科の学習における知識は、「知覚・感受を伴う音楽活動を通して得る知識」ですので、生徒が音楽活動を通して、実感を伴って理解することができるように学習活動を工夫する必要があります。音楽活動を伴った学習活動を設定する際は、目的を明確にすることがポイントです。その際、教師の発問もポイントとなります。

↳「授業づくりQ&A」Q7, Q9へ

また、中学校音楽科では創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けることを目指します。表現の活動において創意工夫を生かした音楽表現をするためには、音楽活動そのものを成立させるために必要な技能、表現の対象となる音楽活動を成立させるために必要な技能を身に付けることが大切です。その際、トレーニング的に何らかの技能を身に付けるということに留まらず、その技能を、生徒が目的をもって、必要感のあるものとして身に付けることができるようにすることがポイントです。

「中学校音楽科における『技能』」へ

そこで、第1時では、既習教材を用いてアルトリコーダーの演奏に必要な技能である運指、息の使い方、タンギングなどについて確認することで、アルトリコーダーの音色や奏法に関心をもつことができました。次に、「聖者の行進」の特徴について、教師の模範演奏を聴いたり、2つの旋律を自分で演奏したりしながら実感を伴って理解できるようにしました。さらに、生徒自身が考えながら実感を伴って理解できるようにするために、「最初の部分の2つの旋律はどのような動きになっていますか」、「中の部分は、最初の部分と比べると2つの旋律の動きはどのように変化しましたか」など、教師の発問を通して学習を進めていくことで、「聖者の行進」の2つの旋律が、コール&レスポンスのような掛け合い、ユニゾン、2声のハーモニーで構成されていることについても確認することができました。

♪【第2時】

生徒が目的をもって、必要感のあるものとして技能を身に付けることができるための工夫

アーティキュレーションを生かして演奏するためには、アルトリコーダーの奏法や演奏するために必要な身体の使い方などを身に付けることが必要です。そのためには、第1時と同様、生徒が音楽活動を通して、実感を伴って理解できるようにすることがポイントです。

そこで、第2時では、まず、スタッカート奏法、ポルタート奏法、レガート奏法の3種類の奏法で演奏された「聖者の行進」を聴き、アーティキュレーションによる曲想の変化に関心をもつことができました。次に、アルトリコーダーで「聖者の行進」の主旋律をスタッカート奏法、ポルタート奏法、レガート奏法の3種類の奏法で演奏しながら、アーティキュレーションが異なると、曲想が変化するという実感を伴って理解できるようにしました。その際、アーティキュレーションによる曲想の変化について実感を伴って理解できるようにするだけでなく、3種類の奏法で演奏するために必要な技能のポイントや身体の使い方などをワークシートに記入することができるようにしました（資料1）。このような学習を展開することで、創意工夫を生かした音楽表現のために必要な技能は何かということに焦点化し、生徒が目的をもって、必要感のあるものとして技能を身に付けようとする主体的な学びにつなげることができました。

A	B	C
奏法を示す譜例 (スタッカート) 奏法	奏法を示す譜例 (ポルタート) 奏法	奏法を示す譜例 (レガート) 奏法
♪演奏するときのポイント 息を少しだけ吹く 指をはきはき動かす トゥットゥットと発音する(舌を速く動かす) 息のスピードを速くする	♪演奏するときのポイント タンギングを使う トゥットゥ 息は吐いたままタンギング	♪演奏するときのポイント 息を吹き続ける あたらしい息で トゥー——

資料1 ワークシートの一部

♪【第3時】

創意工夫を生かした音楽表現にペアで取り組むための工夫

本題材は、アルトリコーダー二重奏で演奏したり意見交換したりする学習活動が中心となるため、生徒が主体的・協働的に学習活動に取り組むことができるような指導の工夫がポイントです。また、生徒が創意工夫を生かした音楽表現をするためには、どのように演奏するかについて考え、思いや意図をもつことができるようにすることもポイントとなります。

そこで、第3時では、「聖者の行進」を、創意工夫を生かした音楽表現で演奏するためにペアで学習活動に取り組むための指導の工夫を行いました。まず、どのように演奏するかについて考え、思いや意図をもつことができるように、ペアで「〇〇な聖者の行進」という曲名を考えるようにしました。その際、教師が創意工夫した「〇〇な聖者の行進」の演奏を基に、アーティキュレーションの違いや演奏の仕方によって様々な印象の演奏になることを生徒が実感することができるように留意しました（資料2）。また、ペアで音楽表現を考える際は、アルトリコーダーで試奏しながら創意工夫するように促しました。その際、表したい「聖者の行進」にするために必要な技能の習得については、教師によるアドバイスだけではなく、ワークシートに「こんなときどうする？」（資料3）という欄を設けたり、友達や教師からアドバイスをもらうためのアドバイスシート（資料4）を活用したりして、生徒自身が確認をすることができるようにしました。このような指導の工夫を行うことで、ペアで協力しながら表したい「聖者の行進」にするために必要な技能の習得につなげることができました。



資料2 教師による演奏の提示

こんなときどうする？

アーティキュレーションを上手に表すことができない → □参考動画を見よう
(Microsoft Teams → R51年授業 → ファイル → 音楽)

□WSの左側「演奏するときのポイント」を見よう

表したい音楽になっているか分らない → □動画を撮ってみよう
 □動画を視聴して気付きをメモしよう(裏)
 □友達や先生に聴いてもらおう



資料3 ワークシートの一部（「こんなときどうする？」）

「_____な聖者の行進」アドバイスシート 

ペアでの演奏を友達や先生に聴いてもらい、アドバイスをもらいましょう！

項目 ※できているところには○を記入	聴いてもらう人の名前			
1 姿勢や楽器の構え方に気を付けて演奏している				
2 正しい音（指使い）で演奏している				
3 選んだ奏法にふさわしいクンギングをしている				
4 息の量やスピードを調節している				
5 ペアで表したい音や音楽になっている				

<アドバイスのポイント>

- ・○の項目は、どのようなところがよくできていたのかを伝える。
- ・空欄の項目は、どのようにしたらできるようになるのかを伝える。

資料4 アドバイスシート

♪【第4時】

目的を明確にした演奏を発表する場を位置付けるための工夫

表現の活動では、演奏を発表する場を位置付けることが多くあります。演奏を発表する場があることは、生徒にとっても大きな目標となりますので、生徒の実態や題材の目標などに応じて発表の形態を工夫することがポイントとなります。

そこで、本題材の終末となる第4時では、表したい「〇〇な聖者の行進」について創意工夫した点を発表し、互いの演奏のよさを伝え合う発表会として、演奏を発表する場を位置付けました。演奏を発表する場を位置付けたことによって、個人またはペアで主体的にアルトリコーダーの練習に取り組む様子を見ることができました。その結果、発表会では、これまでの学習を踏まえ、自信をもって演奏を発表することができました。また、演奏を聴く際の視点を明確に示すことによって、題材の目標により迫ることができたと感じました。

本題材の振り返りでは、表したい「〇〇な聖者の行進」で演奏するために創意工夫したことだけではなく、演奏に必要な技能の習得についての記述（資料5）があり、生徒自身が演奏に必要な技能が何であるかという理解につなげることができたと考えます。

私たちはやはりよりおだやかな感じにしたかったので、ホルタ奏法にしました。

練習期間は2日しかありませんが「あなたかな聖者の行進」に近づいたと思います。吹く時は、クンギングも使いなからおだやかに聴こえるようにする少しの調節が難しかったです。

資料5 生徒の振り返り（下線は技能の習得に関する記述）